中野キャンパス　〒298-0271 千葉県夷隅郡大多喜町中野 589　TEL:0470-830830　FAX:0470-64-6350

２０２１年１２月号

三育学院中学校

Building Character

『 覚悟 』

12/1-8　本校で実施したアンネ・フランク パネル展

今年も残すところ 3 週間となりました。年の終わりが近づくと、年始に立てた目標をどれくらい達成できていたのかを振り返る機会が増えてきます。私個人としての年始に目標として立てた言葉は「第 3 の態度」というものでした。エゼキエル書にでてくる物語の中から、到底無理だと思われることに対して、神様から「これはできると思うか？」と問われた時、無責任に「できます」や「無理です」と即答するのではなく、エゼキエルのように「主なる神よ、あなたのみがご存じです」という態度を示し続ける１年としたいというものです。振り返ると自分の思い込みや社会の情勢などのせいにして判断しようとしていた自分がいたことを思い出して反省しきりです。

修養会の引率で野口英世記念館に行った際、彼が 19 歳で医者になるために上京するにあたって、生家の床柱に刻んだという実際の文字を見ることができました。そこには、「志を得ざれば、再び 此地を踏まず」とありました。また、他の展示の中に彼が福島にいる間にキリスト教会に通いクリスチャンとなっており、教会で英語、フランス語、そしてラテン語も学んでいたということを発見して大変驚きました。彼の偉業は、たまたま運よくということではなく、このような覚悟があった上での献身によって成し遂げられたものであったということを強く感じました。

私たちの立てた計画や目標は、それほどの覚悟の上で立てられたものであっただろうか。できてもできなくても一年の終わりに「あんまり達成できなかったな」という反省で終わることを見越した見てくれだけのものだったのではないか、覚悟など何も必要としないただの看板に過ぎなかったのではないかという思いが浮かんできました。

先週、三育学院中学校においてアンネ・フランク パネル展が開催されました。本校でアンネのバラが咲いたことをインスタグラムに掲載したことがアンネフランクハウスの理事の方の目に留まり写真集の贈呈があり、今回のパネル展が実現したのでした。

彼女の残した言葉にこのようなものがありました。「生きがいなど何ひとつなかったと、たいていの人は口にしたが、私はけっしてそれを口にするまい。」この言葉にもアンネ・フランクの強い覚悟を感じます。

さて、私たちは、「もし私がそれをなさないのなら、誰がそれをなすのだろう。もし今それをなさないのであれば、いつそれをなすのだろう。」（フランクル『意味への意思』）というほどの覚悟を持って目の前の事柄に向き合った一年を過ごしてきたでしょうか。新年を迎える前に今一度、振り返る時を持たなくてはなりません。

父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。
しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。
（マタイによる福音書２６章３９節）

久我原キャンパス　〒298-0297 千葉県夷隅郡大多喜町久我原 1500　TEL:0470-84-0111　FAX:0470-84-0076